

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果				
		1	2	3	4	5
学位論文審査基準	1		○	◎		◎
	2	◎	◎		◎	◎
	3				○	◎
	4	○	○	○	◎	
	5				○	◎
	6	◎	○	○		◎
	7	◎		◎		○

自然科学研究科物理学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	A 優	B 良	C 可	D 不可
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	研究目的が明確で、学術的に意義を有すると認められる課題が設定されていること。また、先行研究を十分に参照し、そのことが明記されており、引用が正確になされていること。	研究目的がある程度明確で、学術的に意義を有すると認められる課題が設定されていること。また、先行研究を参照し、そのことが記述されており、引用がなされていること。	研究目的は提示されているが、学術的な意義が十二分に表現されていない。また、先行研究の参照に不十分な点があり、引用に改善の余地がある。	研究目的が不明確で、学術的に意義を有すると認められる課題が設定されていない。また、主要な先行研究の参照が認められない。
課題を追求する上で方法論の適切性	研究課題の追求が、データ、資料などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。	研究課題の追求について、データ、資料などの処理、分析が行われていること。	研究課題の追求について、データ、資料などの処理、分析が行われているが、不十分な点が認められる。	研究課題の追求が不十分であり、データ、資料などの処理、分析が適切に行われていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究課題探求のために採用された、理論、実験、分析、シミュレーション、観測、調査あるいは資料収集などの方法が適切であること。	研究課題探求のために採用された、理論、実験、分析、シミュレーション、観測、調査あるいは資料収集などの方法に改善する余地がある。	研究課題探求のために採用された、理論、実験、分析、シミュレーション、観測、調査あるいは資料収集などの方法に若干の問題があり、不十分な点が認められる。	研究課題探求のために採用された、理論、実験、分析、シミュレーション、観測、調査あるいは資料収集などの方法が不適切であり、重大な問題がある。
結論の妥当性	論文の構成、論述が明確かつ適切で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること。	論文の構成、論述がある程度明確かつ適切で、結論に至る論理展開が認められること。	論文の構成、論述が不明確で、結論に至る論理展開に改善すべき点が認められる。	論文の構成、論述が適切では無く、結論に至る論理展開が認められない。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究内容に独創性が認められ、得られた結果が当該研究領域の発展又は社会への貢献に寄与すること。	研究内容にある程度の独創性が認められ、得られた結果が当該研究領域の発展又は社会への貢献に寄与する可能性が認められること。	研究内容の独創性は十分ではないが、得られた結果が当該研究領域の発展又は社会への貢献に寄与し得るだろう。	研究内容に独創性が認められず、得られた結果が当該研究領域の発展又は社会への貢献に寄与する可能性が認められない。
その他				